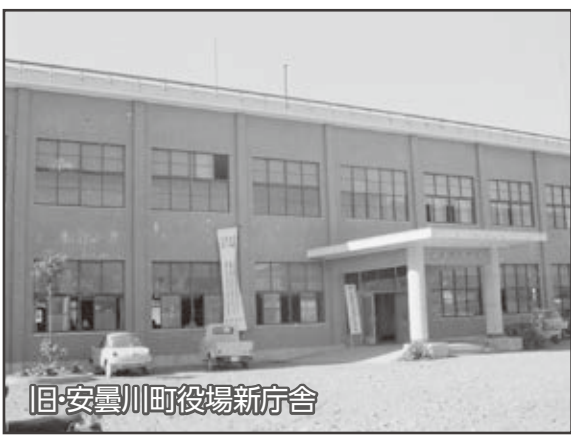


安曇川町の誕生と庁舎の建設

安曇川町の誕生

高島市が誕生した「平成の大合併」の約50年前、市内には「昭和の大合併」によりマキノ町・今津町・新旭町・安曇川町が誕生しました。これは、昭和28年（1953）に公布された「町村合併促進法」という法律に基づくもので、それまで滋賀県にあった3市41町133村の自治体は、このときの合併で、6市41町10村に配置分合されました。この昭和の大合併時に、高島郡



旧・安曇川町役場新庁舎

内で最初に誕生したのが、広瀬村・安曇町・本庄村・青柳村の4町村の合併による安曇川町で、合併日は昭和29年11月3日でした。

合併に先立ち、県が設置した「合併促進審議会」は、昭和29年3月に第一次案・第二次案という2種の合併計画案を公表しました（表参照）。安曇川町は、この第一次案にあった安曇川流域に連なる4町村が1つの町となるという案を採用したもので、これにより、人口1万3000人の新たな町が誕生することになりました。

第一次案	第二次案
①海津村・剣熊村	①海津村・剣熊村・百瀬村・西庄村
②西庄村・百瀬村	②今津町・川上村・三谷村
③今津町・川上村・三谷村	③饗庭村・新儀村・広瀬村 安曇町・青柳村・本庄村
④饗庭村・新儀村	④朽木村
⑤広瀬村・安曇町・青柳村・本庄村	⑤高島町・小松村
⑥朽木村	
⑦高島町・小松村	

滋賀県町村合併促進審議会による高島郡内合併計画案

新町名称の検討

合併協議の中では、まず新しく

誕生する町の名称の検討が行われました。新町の名称は、昭和23年に発足した広瀬村・安曇町・青柳村・本庄村組合立中学校の校名が安曇川中学校であることから、「安曇川町」とすることが当初から有力な意見でした。しかし、青柳村議会から「安曇は常用漢字ではなく、読むのが難しい」、「中江藤樹のふるさと小川を使うべきである」という意見が出され、一時期「小川町」または「あど川町」の名称も候補となりましたが、合併推進協議会での協議の結果、安曇川町と決定しました。

役場庁舎の位置

一方、合併後の庁舎位置については、これも青柳村議会から「本庁舎は江若鉄道安曇駅付近に建設すること」という意見が出されました。しかし、完成した「合併協定書」では「新町の役場の位置は当分の間現安曇町役場とし、将来財政の充実をまって適当な位置に新築すること」が定められました。

安曇川町役場新庁舎が安曇川町

田中455番地に完成したのは、昭和35年のことです。5月14日付けの新聞には、「鉄筋二階建の安曇川町役場庁舎が、このほど同町南市にできあがった。（中略）一階は事務室、二階は議場や会議室で、高島郡の町村役場では最大のものである。」と報じられています。

この役場庁舎は、途中増改築を経て、平成17年1月の高島市誕生以降は、安曇川支所および教育委員会庁舎として活用されました。その後、平成29年の安曇川支所の移転、令和元年の教育委員会の本庁舎統合に伴い、その役割を終え本年度解体工事が進められます。

文化財課 ☎(25)85559

編集感

皆さん、高島市役所公式インスタグラム「#たかP写真館」を知っていますか？

このページでは、高島の風景などをできるだけリアルタイムにほぼ毎日投稿し続けて、間もなく1000投稿を迎えようとしています。

今後の環境良化に際し、一人でも多くの方に高島市の魅力を伝え、「撮りたい!行きたい!」と感じてもらえるように、これからも全集中で広報していきたいと思います!(Y.O)



広報たかしま

令和2年

11

月号

No.250

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課

☎0740(25)8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp